



新しい観光の潮流



フットパスを生かしたまちづくり

近年の観光形態は、参加から体験、健康に加え、学び志向へと深化し、旅行者は自然や歴史文化、特産物や人との交流など、その土地ならではの地域らしさを求めています。甲州市では固有の観光資源を生かして一層の活性化を図っていくため、自然や産業、歴史文化に親しむ散策道として、フットパスルートの構築を目指しています。新たな潮流として注目されるフットパスの意義や活用、今後の観光振興のあり方を考えていく機会としてミニシンポジウムを開催します。多くの皆様のご参加をお願いします。

日時 平成19年9月7日(金) 午後7時～午後9時

会場 甲州市 勝沼市民会館2階大ホール(勝沼庁舎敷地内)

参加費は無料です。どなたでも自由に参加できます。

■ 講演

株式会社JTBパブリッシング『大人の遠足』編集長 益子幸子さん

従来の観光ガイドブックとは異なる視点を取り入れ、全国各地のまち歩きや里山歩きのコースを紹介する人気のガイドブック『大人の遠足』編集長の益子幸子さんに、フットパスの効果や生かし方など、これからの観光地のあり方について語っていただきます。

■ 意見交換

まちづくりは、地域に住む人間が主体的に取り組んでいくことが重要です。実践者として取り組んでいる皆さんに具体的な方策や課題について語っていただきます。

パネリスト 益子幸子さん(株式会社JTBパブリッシング編集長)

神谷由紀子さん(NPO法人みどりのゆび代表)

東京都町田市で「多摩丘陵フットパス」を精力的に展開しているNPO法人の代表。フットパスでは国内の草分け的存在であり、全国への普及活動にも取り組んでいる。

高安一さん(勝沼朝市会代表)

毎月第一日曜日に勝沼で朝市を主催している。コミュニティビジネスを通じて地域の元気度アップが目標。NPOなど地域固有の文化をもとにしたまちづくり活動にも参画。

コーディネーター 屋代雅充さん(景観まちづくりプランナー)

地域らしさを生かした観光のあり方について、景観や環境を軸に全国各地の計画づくり等に関わっているプランナー。甲州市勝沼地域におけるフットパスルートの構築や活用にも携わっている。㈱ラック計画研究所代表。

※フットパス foot-path 自然や歴史文化に親しむ散策道。19世紀後半から取り組みが始まったイギリスでは、国民の歩く権利が法律で保証され、地球6周分ものフットパスルートが設定されている。週末になるとルートマップやガイドブックを手に多くの人々がウォーキングを楽しんでいる。

[歩く観光地として成功している例]

●ミシュラン3星に選ばれた高尾山ハイキングの魅力

八王子市の観光協会の調べによると高尾山には年間約250万人が訪れる。

フランスのガイドブック「ミシュラン」で京都、奈良に並ぶミシュラン3つ星(飛騨高山とともに)選ばれた。それは、大都市近郊にこれだけの大自然があるということが評価されたと言われている。都心からのアクセス良好、新宿から40～50分(京王線)で行ける。交通費も往復で1000円ちょっとと安い。あまりお金をかけずに、週末に気軽に遊びに行けるという点でも魅力的。夏は山頂のほうでビアガーデンもやっている。

客層幅広い。マラソンをする人、パンプスを履いたOL、中高年、女性一人、お父さんと子ども、肩が偏っていない。早い時間から歩いている人もいる。多種多様な人々がいる。

自然研究路として6コース設定されている。ケーブルカーを使えば30分で歩けるコース、歩いて1時間半ぐらいのコース、また奥日光の方までハイキングできるコースも(初心者が気軽に出来るものから、中級者、かなりハードな道を歩けるものまで)あり、幅広いコース設定で様々な人が楽しめるようになっている。

薬王寺参拝を目的に来る人、滝に打たれる水行を目的とする人、花を見ながら一人で楽しみながら歩く女性→花を介しての交流、情報交換→1人でもさびしくない、また安全に登っていける。

「高尾・奥多摩植物手帳」を担当した人と歩いた。ガイドと歩く、つまり地域をよく知っている人間と歩くと、ただ歩いているだけではなく、これが何の花かであるなど指してもらいながら歩けるため、普通では見過ごしてしまうようなものも観察できる。またガシガシ歩くのではなく、ゆっくりゆっくり歩いていくことが出来る為、体力的にも楽であり、川のせせらぎを聞いたり周りの景色も楽しめたりと、歩くこと自体を楽しむことが出来る。

ビジターセンターのガイドツアー(約1時間)は、鳥の鳴き声や虫の習性のレクチャー、木の実の試食(味の区別)、木の葉の臭いをかぐ、触る等、五感で感じる体験をさせてもらえる。そこにいるだけで空気が変わってくるよう感じた。ツアーは希望者なら誰でも参加できる。見知らぬ人同士(家族連れ、夫婦、女性グループ等)が交流でき、ともに楽しめる。また普段付き合いのある人の新しい一面(素顔)を発見できる。

湯豆腐を使った限定ソフトクリームなどの食の楽しみもある。ハイキング最後の楽しみには、「ビールを飲む」というものもある。とろろそば屋でおなか一杯になる。また歩く格好で入れるお店(格式高いお店やおしゃれなお店ではなく)、蕎麦屋やお茶屋さんがあるという点も優れている。さらに、酒饅頭、豆乳のドーナツなど、ちょっとしたお土産を買う楽しみもある。

幅広い年齢層に人気なのは、どの層も楽しめるということが人気の秘訣だと思う。

ただ、男性と女性でたのしむポイントが違う。男性は、自分でしっかりとプランニングして人を連れて行く、歴史的な背景などを事前に勉強した上で行き、教える。そのようなきっちりとしたプランニングをする。一方、女性は好奇心が強く、プランがどうのと言うより、そこに行って楽しむ。その場でどんなお土産が買えるか、どんなものが食べられるかということも大きな魅力になっている。歴史を学ぶこと+αとして楽しみがあるほうが良い。

●巡り歩く楽しみがある川越七福神巡り(開運ウォーキング)

川越市で七福神祭りは元旦1月1日～7日までで、毎月1日には七福神めぐり行われている。

七福神巡りは、スタンプラリーとしての面白さがある。歩いて何かを集める(七福神をそれぞれ集めて宝船の上に乗せていく、コースによって異なる楽しみを提供する)ということは、町歩きのとっかかり・導入編としてよい。また、ゲーム性が高く、自分たちが参加しているという意識が高くなるし、達成感など参加して楽しい要素が得られる。

現在、年間500万人の観光客が訪れ、市は1000万人を目指している。最近では、中高年+デートコースとして若い人も目立ってきた。300円から500円くらいのワンコインで楽しめる買い食い的人气、どの層にもうけている。蔵造りの街並みを中心に整備を進めており、蔵プラス自分たちが楽しめるものがあるというのが大切。

●地元の人とのふれあいと次ぎに出会うものへの期待が足を運ばせる「四国お遍路さん」

四国のお遍路は、地図にはなく人に聞かなくてはいけない所や人家を通る場所などがある。地元の方が道を聞くと必ず教えてくれる。その地元の人とのふれあいや、ちょっとした親切が巡礼の楽しみになっている。

納め札は、巡礼の回数によって色が変わり、1~4回は白で、50回で金色に、100回行くと錦の納め札に変わる。お寺に行った時に錦の納め札があったら縁起がいいので、次の巡礼者はそれをもっていいというルールがある。めったにないが、その期待で次へ行くのが楽しみになる。

●参加する意欲をアップさせる「公式パスポート」

ウォーキング協会等が開催する東京国際スリーデーマーチには全国から58000人が参加している。それぞれのコースは2, 5, 10, 20, 40km。

ウォーキング協会では、公式パスポートを発行している。自分が参加して、何かをやったと言う思い出を持ち帰ることが出来、それを楽しさとして参加する人もいると思う。

また、小金井テント村ではジュースや書籍などのグッズ、焼きそばやたこ焼き、おでんといった屋台的な楽しみ方もある。

コース名	距離	スタート	ゴール
1. 神奈川公園コース	2km	神奈川公園	神奈川公園
2. 小金井公園コース	5km	小金井公園	小金井公園
3. 武蔵野公園コース	10km	武蔵野公園	武蔵野公園
4. 小金井テント村コース	20km	小金井テント村	小金井テント村
5. 小金井公園コース	40km	小金井公園	小金井公園
6. 小金井公園コース	40km	小金井公園	小金井公園
7. 小金井公園コース	40km	小金井公園	小金井公園
8. 小金井公園コース	40km	小金井公園	小金井公園
9. 小金井公園コース	40km	小金井公園	小金井公園
10. 小金井公園コース	40km	小金井公園	小金井公園

●魅力的なウォーキングコースとは

ウォーキングの目的は、健康、ダイエット、四季の移り変わりを感じる、自然と親しむなど様々だが、どんな目的においても「続けて歩く」ことにおいては「何が楽しい」と感じる事が大切。「なにかを発見する喜び」や「見つけることの喜び」、「歩かされているのではなく、自分で歩いて楽しい」ということがポイントになる。

1時間半程度で5～6kmのコースが最初は適している。そこをぶらぶら歩いたり、裏道に行ったり寄り道をしたりして知らない町を楽しむ。ガイドブックにはないちょっと違った道を歩くという楽しみにまで発展できれば、歩くということがもっともっと楽しめるのではない。

どのお客さんをターゲットに、どこからはじめるのか。まずは、地元が楽しめるような道でなければならぬ。どういう人が歩き、どのようなペースで歩くかを考えてつくられたコース設定が必要。休憩するポイントがあるほうが歩く人にとってもよい。

●勝沼で歩く魅力～ここでしか味わえない楽しみ～

勝沼はワインとぶどうのイメージが強い。無料休憩スポットには、自分のお弁当を持ってきてそこで食べられるような場所がよい。さらに、ワインやチーズ、ちょっとしたおつまみ、ぶどうのソフトクリーム等、ここでしか味わえない楽しさがワンコインで買えれば、思い出としても残り、何回も来たくなる。そういう魅力がリピーターにつながるし、口コミ(人に勧める)においても自分の体験が重要。

東京の澤ノ井という酒造：100円の自動販売機で日本酒の試飲ができる。立ち飲み感覚で楽しめるようなもの：電車の待ち時間やウォーキングの最終地点で乾杯できる。

●観光の要はターゲットとアピールポイントの設定

多様な年齢層をターゲットにしたのでは魅力も分散してしまい、逆に魅力がなくなる。ターゲットを絞ることが大切で、ターゲットを設定して内容を考える。ペースができれば、そこを基準に色々考えることが出来る。

呼び込むにあたって、動機(きっかけ)が必要なので、PR方法として何をアピールしたいかというテーマをはっきりさせること。そうするとわかりやすい。

旅行に行ってみたいと思える写真やキーワードとして、どの写真を見せれば呼び込めるかということを考えていければいいのではない。

以上

●フットパスとまちづくりの関係【益子】

私もフットパスとまちづくりがどういう形でつなげていくのだろうと思っていた。フットパスが何か詳しく存じ上げなかったので、おふたりの話を聞いて、どういう風に組み合わせると町の魅力をうまく取り込むことが出来るのだなということを理解できたと思う。

「地域の魅力を発見する」ということでは、実際住んでいる皆様方が、「何が魅力か」ということを一番わかっているんじゃないかな。高安さんのいろんな試み、アイデアが豊富な所を、実際色々活動を見せていただくことによって、「単なる観光ではなくていろんな角度からやっていくことが出来る」んだなということがよくわかる。

地元のみなさんがこれからもいろいろなアイデアをお出しになって、それがより、今まであんまりとらえられていなかった魅力というのが盛り込んでいけるんじゃないかなというのが非常に勉強になった。地域というのはこういう風にして活性化していくんだなということを改めて具体的に教えていただいた。

実際フットパスのルートを作成するとき、ポイントとなるような点というのはあるのか。

●ルート作成のポイント「寄り道したくなるフットパスづくり」【神谷】 01:09:04

ノウハウはきっとあると思う。それを煮詰めて抽出すればきっとどこでも使えるんだろうと思う。

小道だとか路地とか、「ああ言ってみよう」とロマンを感じるところをつないでいくという形。このマップを作るのにも何度も何度も歩いて、一番いい道、足に快適なのがいい。出来れば土の道がいい。そして、小道があって、奥に何があるのかな、あっこういうところにつながった、というロマンと発見みたいなものをつないでいくような、ということがノウハウかなと思う。

そういう道をつないでいくと、いくらでも歩ける、どこまでも道がつながっていたんだと思う。尾根道も魅力、多摩丘陵は尾根道が魅力的。鎌倉古道もそうだが、人間は尾根を見ながら歩いていたもので、いい景観がある道はそういうところに残っている。そんなような形だと思っている。

●イベントを実施する上での問題点【高安】

コースを設定するとき、自分で歩くのが大事。朝歩くのと昼歩くのと夜歩くのとでは違うし、春歩くのと秋歩くのと、季節によっても違う。いろんなテーマを変えていく。今の僕だったらこのルート、20年前の人ならこのルートと、世代によっても違ってくるし、そういったこともルート設定の中で絞り込んでいくということ为先ほどヒントとして頂いた。

問題点というか、仮に勝沼でこのことをやるときに、おそらくいらっしゃる方は、ぶどうがたわわに実った、欲を言えば桃もある、そういった時期にぜひ歩いてみたい、さらにいえば涼しい時期に歩いてみたいと。そこでちょっとつまみ食いしてしまうとか、そういうことがどうしてもおきてしまう。またはゴミのポイ捨てだとか、そういった部分で、地元の方々の温かいおもてなしを受ける前に、モラルというのか、暗黙の了解で歩いていただくというルール作りをどうしたらいいのか、どうしたらそういう理解を得られるのか、というのが難しい所だと初めて歩いた時に感じた。

●イベントウォークとルール作り【神谷】 01:13:15

いろんなウォークをやっているが、一番訴求力があって、一般受けするのは「景観ウォーク」。景観というのは隔たりなく、いろんな人を引き込む力がある。歴史が好きな人は歴史の話があればいいが、そうでない人もいるし、自然観察で虫を見たりするのも、かなり特異なケースになってしまう場合もある。

ルール作りでは、私たちはそれほど難しいことは言っていない。昔は歩くと嫌がられて、農作物が

なくなるとか、迷惑だとか言われた。例えば大根がなくなったり、ネギが間引きしてあったりということがあった。でも、それは考えると素人じゃない。プロが来て取っている。野草でもグループじゃなくて、個人とか2、3人で歩く玄人が取っていってしまう。

道標を立てるにしても地主さんと問題になることもある。地主さんには盆暮れの挨拶に行くとか、地主さんと新しい住人がどうやっていくかというのが、私たちには一番大切なところなので、そこは気をつけている。

また、神社仏閣に行くと、かならずお賽銭をあげてもらうか、会としてちゃんとあげてくる。「ウォークすると、地域を守って下さっている地元の方が潤う」ということを主体にして考えている。

●行政との協力体制

[NPOから甲州市への要望（高安）]

行政は遅いし、お金をくれてもいろいろこうしがらみがセットで来るという話も聞く。甲州市は質はいいが、もしかしたらそういうことがあるのではないかと。

ただ1つ言いたいのは、住民がやって欲しいと思うことをやってほしい。また、NPOなどの協力に対して、後につながるような一言、お礼が欲しかった。この間も市のほうのイベントでおもてなし係ということでやったが、それに対して、後につながるような、住民の組織に対するお礼がほしかった。

[NPOみどりのゆびと町田市の関係（神谷）]

町田では、緑地の管理に年間6万5千円いただいている。機材は全部市の備品を貸与するので、全くお金はかからない。「ご苦労さん」という程度のお金なのでそれでいいが、非常にうまく使われている。でも行政の職員も協力的でボランティアやフットパス祭りに来てくれる。

勝沼にも三森さんとか高安さんとかいらして、フットパスを受け持っていていただくことになったが、そういうセンスのいい方たちが職員の中に多いので、市民としてもありがたいと思う。

●地元の人「本物」を見極める【益子】01:22:16

これまでガイドブックで紹介してきた情報は、いろいろな角度からという観点で非常にたくさんの情報を詰め込んでいた時代があった。でも今はたくさんの情報ではなく、本当にいいものだけを紹介してもらいたいという読者の声が聞かれるようになった。それはホームページやインターネットでたくさんの情報が氾濫しており、その中からチョイスするのが難しい。そこで何がお勧めであるか、包み隠さずに、自信を持って紹介するようにしている。

その土地ならではの良さ、「これには自信を持っているんだ」と、地元の皆さんの熱意が伝われば、ここはいいところだと伝えることができる。そうして口コミで広がっていく。

現象というか、今の流れとしてはそういう傾向にあるので、「これが一番のお勧めです」と皆さんのほうから教えていただければ、こちらも紹介しやすい。

●会場との意見交換

[忙しくて構ってられない(会場参加者 男性)]

→神谷：山梨弁がいい、本物がいい。素のままで、特別なもてなしはいらない。自然のままがよい。

[身障者に対応したフットパスづくりはできないか(会場参加者 女性)]

→高安：自分たちも回って歩いてみているが、もう少しベンチに座れるところがあるとよいと思う。
オプションコースをつけて、ある程度はガイドラインを決めてもいいが、少なくとも拠点はユニバーサルにできるとよい。コースを時間通りに歩けなくても、うまくピックアップしてくれるようなシステムから始めてもいいのではと思う。

[町田ではガイドやスタッフの人材育成はどのようにおこなっているのか(会場参加者 女性)]

→神谷：町田でもキーパーソンは多くない。勝沼に三森さんや高安さんがいるのは貴重な存在。キーパーソンが大切。町田でも最初はいなかったが、今ではみんながやってくれるようになった。勝沼でももう少し経てば、やってくれる人が出てくる時期になるのではないのか。今いるキーパーソンが何年か頑張ってくれる間に、皆に理解が広まっていく。

●まとめ：フットパスの展開について(屋代) 01:32:35

これから団塊の世代がリタイアする。680万人といわれている。その大勢の方が、自分自身や家族の健康に対して不安を持っている。単に「これから遊べるぞ」と思っている人だけではない。健康志向が非常に高い。さらに、名所旧跡などにも興味を持っている。それからうまい郷土料理に興味を持っている。そうした世代の受け皿として、フットパスというのは非常に有効じゃないかと思う。

フットパスをこれから行っていく上で、その役割を、皆さんの議論をまとめていくと

- ・地域の魅力を再発見する役割、それによって誇りが生まれる
- ・美しい景観を作っていくという役割：だれもがとっかかりやすい切り口。
- ・外部の人々との交流の機会が出来る
- ・農業や産業を活性化する機会
- ・知名度を上げる、有名になる
- ・心の病を癒す役割・元気な人をどんどん作り出す役割
- ・元気なシニアを増やす役割
- ・子どもを自然に近づける役割→大人になってからまたフットパスを歩くようになる
- ・もてなし：構えないもてなしが重要。よそよそしい態度、特別扱いではなく自然な態度が期待される
- ・ルール作り
- ・最後のお楽しみ ワインで乾杯のようなもの

こうしたものを作っていけたらいい。さらにフットパス全体が甲州市に広がっていくようになるとよい。

以上

